

# 由来別アユ種苗の成熟特性把握

福島県内水面水産試験場 生産技術部

部門名 水産業－内水面（増養殖）－アユ

担当者 佐々木恵一

## I 新技術の解説

### 1 要旨

福島県内水面漁業の復活に向けた種苗生産・供給技術に関する実証研究では、釣れ易いアユ種苗を生産するための技術開発試験を行っている。そこで得られた優良形質を持つ系統の生産を円滑に行うため、飼育下における成熟等の情報を事前に把握することを目的として飼育試験を行った。その結果、採卵可能時期は系統間でずれがあり、人工種苗では平均採卵数が後期になるほど減少する傾向があることが分かった。

- (1) 試験には阿仁川由来の人工種苗（以下、阿仁川）、鶴田ダム由来の人工種苗（以下、ダム湖）、令和元年度に友釣りで採捕した阿仁川由来の人工種苗から生産した人工種苗（以下、F1）、県内河川に遡上した天然種苗（以下、天然）の4系統用いた。
- (2) メスの GSI は全系統で9月上旬から急速に増加した。阿仁川、F1 は9月下旬～10月上旬にかけて、ダム湖、天然では10月上旬以降にピークに達していた（図1～4）。
- (3) 採卵出来るメスが出現したのは阿仁川、ダム湖は9月下旬、F1 は10月上旬、天然は10月中旬で（図5）、人工種苗では GSI 上昇初期にメス1尾あたりから採取できる熟卵の平均重量が高く、その後は減少傾向にあった（図6）。
- (4) 概ね GSI がピークに達する時期に採卵可能なメスが出現し、平均採卵数は初期の方が高い傾向にあった。後期ほど採卵数が減少するのは放卵した個体の割合が増えるためと考えられ、成熟が始まって早い時期に採卵を行うのが効率的と考えられた。

### 2 期待される効果

- (1) 成熟時期や採卵量の推移を踏まえ、種苗が必要となる時期や数量を合わせた生産が可能となる。

### 3 適用範囲

- (1) アユ放流種苗の生産者。

### 4 普及上の留意点

- (1) 普及の際は試験と生産施設での飼育水温の違いを勘案して進める必要がある。

## II 具体的データ等



図1 阿仁川メス GSI



図2 ダム湖メス GSI

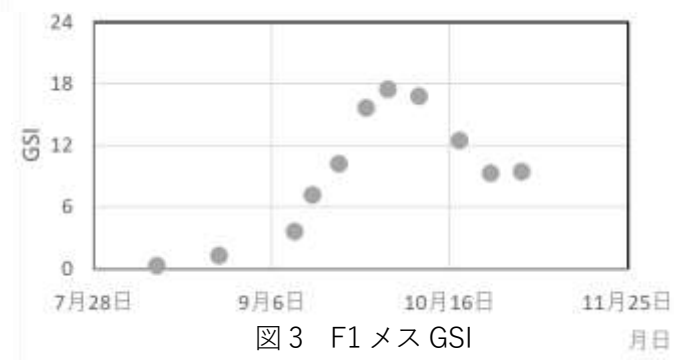


図3 F1メス GSI



図4 天然メス GSI

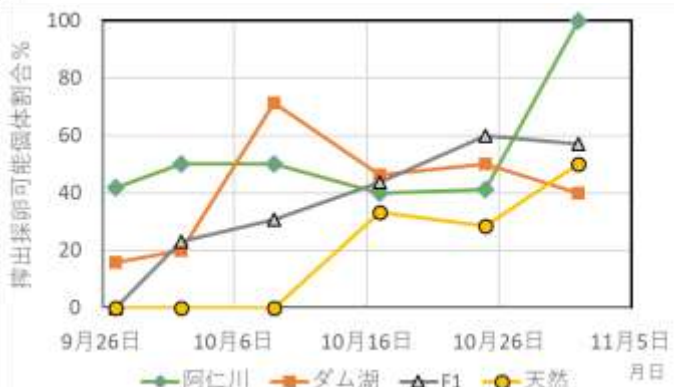


図5 擲出採卵可能個体割合



図6 平均採卵重量

## III その他

### 1 執筆者

佐々木恵一

### 2 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成30～令和2年度
- (2) 研究課題名 内水面重要水産資源の増殖手法の開発

### 3 主な参考文献・資料

- (1) 特になし

\*本研究は農林水産省委託事業「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」(JPJ000418)の成果である。